

# 「The Barber Bar」

かつて床屋だった場所が、「村の社交場」として生まれかわりました。



作家の湯山玲子さんがバーにプライベートで来店

岡山県の北部に位置する新庄村。  
「日本で最も美しい村」連合にも加盟している、美しい日本の田舎の村の地域資源・景観の残る場所です。しかし、人口が900名ほどの村で当然のごとく過疎高齢化は進んでいる。宿場町の風情も残る村のメインストリート「がいせん桜通り」に、「村の社交場」をコンセプトとした新しいコミュニティスペース「The Barber Bar」が誕生しました。



「The Barber Bar」は、その名にもあるように、廃業して20数年近く経つ旧床屋さんの古い建物を、「バー」として再生させるプロジェクトです。店主の板野氏は、これまで公共的な立場で村内で人材育成を進めてきましたが、次のステージとして自主的に具体的に「人が集まれる場所づくり」の事業に取り組んでいます。



主な機能は3つあります。まず、昼はコーヒー、夜はお酒が楽しめる「バー空間」。次に構造補強の柱が並ぶ壁面に2層分ある吹き抜けまで続く本棚をもつ「ライブラリー機能」。三つ目が写真展示を中心とする「ギャラリー空間」です。



「バー」



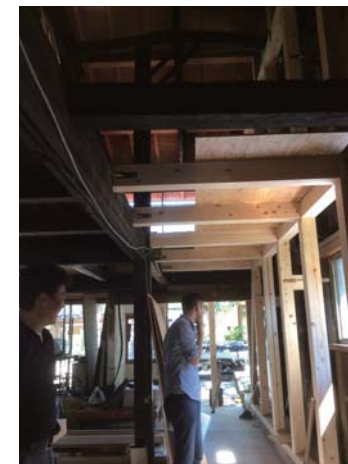
「ライブラリー」



「ギャラリー」

デザインを手がけた和田は、板野氏の構想の初期の段階で声を掛けてもらい、この場でバーをする改装の依頼を受けました。ここで板野氏の構想が、閉鎖的なバーというよりも、新庄村の景観をはじめとした資源に可能性を感じていて、どうやらそれは新しい種類のコミュニティスペースを造りたいのだろうということに共感を持ち、デザインパートナーとしてこのプロジェクトに参画。

プロジェクトを具体化するにあたっては、板野氏の構想や志の一方で困難もありました。それは美しい景観がある一方、自然環境は厳しく12月～3月は雪のため、なかなか地区外の方は観光などに訪れるようなことはありません。また地区には決して多いとは言えない村人を対象に、いかにこの場所を持続的に維持させるのかということです。



和田と板野氏は再三工事前にこの場所のあり方を話し合いました。ここで再び、「村の社交場」というキーワードが生きてきます。ここは、トレンドの店を作ることやコーヒーショップのような“商品”を販売する目的の店でもないのです。周辺店舗等の減少で少しずつ交流機会が減っている村の方ももちろん、故郷のことを遠くで想う若者にも、そしてこの村の空気が好きなすべての方が、あたらめて集っていけるそんな方がこの社交場の利用客にイメージされてきました。

そこで、建物が完成する前から、あえて村内外のこの場所に関心を持ってくれそうな方たちを招き入れ、お試し企画的に少しずつ「この場所の使い方」についてイメージをともに膨らませていきました。実際に数度のお試し企画も、20代～60代くらいの男女、村人もいれば他県からも気軽に人が集まれる場所となり、あたらしい文化の発信拠点となる可能性を感じつつあります。

2014年は雪のためこれでひと段落しますが、2015年4月ごろからの再稼働を楽しみにする多くのファンとともに春を待っています。

「どんどんつくられる  
この空間の使い方」



「地場産品の  
スーベニアコーナー（将来）」



「移住した若者が地場食材を使って  
ケータリング料理を提供。」

